



平成27年1月13日発行 (毎月1回10日発行)

函館商工会議所報

と も え

2015

1

No.379



CONTENTS

新春特集

変わりゆく函館 北海道新幹線開業が迫る

新春紙上名刺交換 P 8

新幹線情報 P25

会員 Now P26



JR北海道H5系

旅が、仕事が、暮らしが、街が変わる。

2015年度末 新函館北斗開業



迎春

新年明けましておめでとうございます。
本年も昨年同様、自衛隊函館地方協力本部に対し
ご支援とご協力を宜しくお願い申し上げます。



● 退職自衛官のキャリアをあなたの職場に！

「27年度 合同企業説明会」

・開催日：平成27年7月（市内ホテル）

自衛隊函館地方協力本部 道南地域援護センター
函館市広野町6-18 (0138) 32-0488

● チャレンジ！ するなら今！！



平和を仕事にする

自衛官募集中



● 陸上自衛官候補生 ●

試験日 1月25(日) 26日(月)
2月14(土) 15日(日)

自衛隊函館地方協力本部 募集課

0138-53-6241





平成27年1月13日発行(毎月1回10日発行)

函館商工会議所報

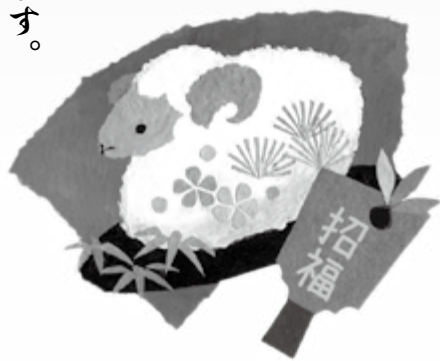
ともえ

1月号

(通巻379号)

旧年中は格別のお引立てを賜り
厚く御礼申しあげます。
本年も皆様にとって、良い年で
ありますよう心からお祈り申しあげます。

謹賀新年



■今月の表紙

函館ハリストス正教会



写真提供：小松英海氏

CONTENTS

2 年頭所感 函館商工会議所 会頭 松本 榮一

4 新春特集
変わりゆく函館 北海道新幹線開業が迫る

8 新春紙上名刺交換

14 会議所のうごき

- 第1回臨時議員総会開催
- 宇都宮市・市議会・会議所との会談
- 観光分野における道央・道南地域商工会議所意見交換会開催
- ひろさきナイト
- 津軽海峡ブランド博
- ジェトロ食品輸出商談会in函館
- 函館駅前広場イルミネーション点灯式
- 第23回優良生徒表彰式・2014年全国そろばんコンクール
- 青年部
 - ・道央・道南協議会連絡会議函館会議を開催
 - ・臨時総会並びに12月例会を開催
- 女性会
- 銭亀沢地区女性部
- 今後のうごき

19 検定試験案内

20 第56回優良商工従業員表彰式

22 中小企業相談所だより

- マル経融資
- 日本政策金融公庫「国の教育ローン」のご案内
- 留学生による函館地域産品評価事業
- HES活用セミナーのご案内
- 個別専門相談日程

24 新入会員ご紹介

25 新幹線情報

26 会員 Now

- 冬のファッション通信：テーオーデパート

27 商工会議所活用レシピ

- (有)ラッキーピエログループ：優良商工従業員表彰式を利用して
言葉の力

28 全面広告

30 北電 冬の節電のお願い

広告掲載企業

自衛隊函館地方協力本部
札幌商工会議所事業引継ぎ支援センター
(独)中小企業基盤整備機構北海道本部
函館青色申告会
(株)JTB北海道函館支店
ホンダカーズ南北海道(株)
(有)ラッキーピエログループ
(業)英知国際特許事務所
(株)日経コンサルタント
(独)中小企業基盤整備機構
龍文堂印刷(株)
はこだて雇用創造推進協議会
函館市市民部市民・男女共同参画課
会議所ニュース

表紙裏
裏表紙裏
裏表紙
P28
P29
段下
段下
段下
段下
段下
段下
折込
折込
折込



2015 年頭所感



函館商工会議所 会頭

松本 榮一



新年あけましておめでとうございます。

平成27年の新春を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

函館商工会議所は明治28年9月29日、当時の農商務大臣榎本武揚より設立認可を得、北海道で最初の商業会議所として発足以来、函館はもとより北海道開拓の歴史と共に歩みを進め、本年、120周年の節目を迎えることとなりました。あらためて苦難を乗り越え、現在の基盤を築いてこられた先人の偉大な業績に思いを馳せ、敬意を表するものです。

また、昭和63年に青函トンネルにより本州と陸続きになってから28年後の来年、いよいよ北海道新幹線が開業し、遠く南の九州鹿児島から鉄路で結ばれることとなり、当地域にとってはさらに新しい時代の幕開けとなります。現在を生きる私たちが明るい未来に向けて精一杯の努力を続けていかなければならない、との決意を新たにしますところ です。

昨年の経済情勢は、4月の消費税率の引き上げやそれに伴う個人消費の停滞、円安による燃

料や原材料の高騰、電気料金の値上げ等もあって、特に地方の中小企業の多くではアベノミクスによる景気回復を充分には実感できずに推移しました。

政府も消費増税時期についての修正を余儀なくされたことから、年末の解散総選挙となりましたが、冷え込んだ個人消費マインドを早期に回復させ、また地方にとっても有効な経済政策が速やかに実施されることを望みます。

さて、当地域が大きな期待を寄せる北海道新幹線「新函館北斗」開業に向けては、いよいよ「はやぶさ」の試験走行も始まりましたが、開業イベントやプロモーション活動を地域がどう一体的に進めるか、新幹線効果をどうやって最大限に活かし、拡大させていくことができるかなど、重要課題解決に向け努力していかなければなりません。

また、北海道新幹線活用の最大ターゲットの一つとも目される北関東各地には、これまでも誘客を見据えた積極的なPR活動を続けてまいりましたが、特に宇都宮とは、昨年末に両市の

市長・市議会議長・会議所会頭の合意により、「はやぶさ」のＪＲ宇都宮駅停車について連携して要望活動を行うこととなりました。人口５２万人の宇都宮からさらに多くの観光客や修学旅行客の誘致が期待されます。

一方、行政とは別に経済界として函館市・北斗市・七飯町の商工会議所・商工会が連携し、地域活性化につながる事業展開について協議、検討しているところです。

また、新青森・新函館北斗間には、青函トンネルを含む在来線貨物列車との共用走行区間が８２kmあり、当面の方針として新幹線の減速運転が示され、開業から３年後に１本のみ新幹線速度の走行予定でした。本所では開業時からの高速走行の必要性を強く訴えてまいりましたが、関係者のご努力により、この区間での新幹線速度走行に向けた動きが現実化し、３年後ではなく開業時に１本、新幹線速度での走行が見込まれています。

さらに新函館北斗駅と現函館駅のスムーズな鉄道アクセスが重要であり、車両や運行ダイヤも含め、利便性・快適性が確保されるよう要望を続けてまいります。

また、本所がこれまで提唱してきた南進政策のもと、特に東北から北関東への事業進出についてより積極的に進めてまいります。

弘前とは、これまでも観光ツアーの造成、イベント等への相互参加など実績もあり、また昨年で青函ツインシティ盟約２５周年を迎えた青森とは、よりビジネスに特化した相互連携を、八戸とは、ＨＡＣ三沢線が就航したこともあり、

観光をテーマに交流が始まっています。

観光関連では、定期便が好調な台湾を中心にインバウンド観光が引き続き好調ですが、今後は物流への拡大を目指すと共に、タイ・中国・マレーシアなど、アジア他地域へのプロモーション活動を継続してまいります。

また、さらなる地域の魅力づくりとして、函館市の大船遺跡と垣ノ島遺跡がその構成資産となっている「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録の実現支援、本所青年部の尽力もあって新幹線開業年に開催が決定した函館フルマラソンの成功、また東京オリンピック・パラリンピックに関わる会議や合宿等の誘致活動を推進していくことも大変重要であります。

一方で、鉄道・空路と共に、地域にとって欠くことのできないインフラとして北海道縦貫自動車道「七飯～大沼公園」間の早期完成が重要性を増しています。新幹線の札幌延伸が着工した現在、何よりも地域を孤立させないため、また安全な道路走行の面からも要望活動を続けてまいります。

地域の経済環境は、まだまだ厳しい情勢が続くものとは存じますが、商工会議所は地域中小企業の経営安定と発展のため、相談業務体制のさらなる強化を図り、また地域経済活性化のため全力を尽くしてまいりますので、今後とも皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

結びに、本年が皆様とご家族にとって実り多く、健康で幸せな一年となりますよう心から祈念いたしまして、ご挨拶といたします。

新春特集 変わりゆく函館 北海道新幹線開業が迫る



本号の新春特集では、これまで本所が行ってきた北海道新幹線開業に対する取り組みや来年3月に迫った開業に向けて、その経済効果を最大限に活かすために、経済界が取り組むべき課題をお知らせします。

本所では、新幹線開業を「ゴール」ではなく、「スタート」と捉え、多くの市民や事業者と共に地域が抱える課題の解決策等を考え、「北海道新幹線開業はこだて活性化アクションプラン」に基づき積極的に行動して参りますので、今後も皆様のご協力をお願いいたします。

1 今後の函館 ～新幹線開業効果を楽しむために～

新幹線開業によって、観光客の増加、流通の活性化、地域交流の促進等の様々な効果が期待されますが、その効果を楽しむために地域として取り組むべき課題が多くあります。北海道新幹線新函館開業対策推進機構によるはこぜミ（新幹線開業はこだて魅力創造ゼミナール）や昨年11月に設置されたシティセールスプロジェクトチームの勉強会で挙げられた当地域の課題や函館が今後進むべき方針等をご紹介します。

※シティセールスプロジェクトチームとは

函館地域の企業や市民が、地域情報や観光商品情報について理解を深め、各企業が持つ販路に向けて適切な情報提供や効果的なセールスができるようになることを目指し、北海道新幹線新函館開業対策推進機構（会長：西村副会頭）により昨年11月26日に設置され、地域の動きを学ぶガイダンスの開催、観光客等の消費喚起を促すための地域イベントや観光商品の情報を掲載したニュースレターの発行等を行っていくこととなりました。



第1回 ガイダンスの様子

当地域が抱える課題

地勢的課題

- 過去の国内新幹線開業地（終着駅）の中で最も人口規模・経済規模が小さい

新幹線開業に関する企業の意識

- 新幹線開業に対し、「他人事として」関心は高いが「自分事」にはなっていない
- 新幹線の乗車経験が少ない人が多く、新幹線が仕事や生活にどれだけ便利なのか想像し難い

新幹線開業に向けてすべきこと、してはいけないこと ～過去の開業地域の反省から～

市民・民間企業の役割

開業後、未永く利益を享受していくための新サービス・商品の創出、再構築、磨き上げ、顧客満足度向上

すべきこと

- 「あるもの活かし」をしっかりと行う。市民が街を好きになれることを見つけ、市民同士で共有していく
- プラス効果を更に高めることを考え取り組む
- 経済界やオピニオンリーダー（世論先導者）を巻き込む努力をする
- 各地域でコアになる人材を探してネットワーク化させる
- 地域資源の再発掘のためには、街の外の声、外の目を受け入れる
- 観光・ビジネス・交流など、地域のニーズに応える準備が必要。自らの役割を考え行動する

してはいけないこと

- 行政に過度な依存をしたり、予算が欲しい、箱物が欲しいと「ないものねだり」をしてはいけない
- マスコミ等が報じるマイナス効果に過度な反応をしない、ワイドショー的な評論合戦はしない
- 駅前開発のみを目的にすることや、駅前の景観で開業の成否を論じてはいけない
- 根拠のない断定（ストロー現象で街は衰退する等）、展望のない諦め（新幹線なんかが来ても街はよくなる等）、思考停止をしてはいけない

北海道新幹線新函館開業対策推進機構の取り組み

1 函館観光の「質」の向上

新幹線開業はこだて魅力創造ゼミナール「はこぜミ」（平成24年7月～）

事業趣旨

- ◎新幹線開業に向け、まちづくりに参画し、地域の名物・魅力を創造していく担い手を養成
- ◎青森県内の名所・名物づくりや魅力づくり、まちづくりを実践・持続されている方々を講師に招き、知識や経験、人脈の形成を行う
- ◎「人が人を楽しませる型」観光コンテンツの創出



はこぜミの様子

2 全市民をあげて観光客を迎える態勢づくり

「ようこそ！はこだてへ。」アピール事業（平成26年2月～）

事業趣旨

- ◎開業2年前の気運向上策として、市民・企業に向けてのホスピタリティのレベルアップを目指す
- ◎観光客に向けての歓迎の意・来訪への喜び・嬉しさの演出
- ◎市民および観光客に向けての新幹線開業アピールと認知度アップ
- ◎ポスター、街路灯フラッグ、のぼり旗、ステッカー（大・小）など市内一円に展開



3 シティセールスなど函館のブランド力をふまえた多面的PR

旅行代理店向けプロモーションの実施（平成26年3月～）

- ◎平成26年3月、「アカシア会」（道内旅行代理店8社仕入担当者会）でのプロモーション・懇談会
- ◎平成26年5月、JTB北海道古田社長他社内プロモーション・懇談会（西村会長を筆頭者に実施）



JTB プロモーションの様子

シティセールスプロジェクトチーム（平成26年11月～）

設置背景

共通で活用できるセールスツールに対するニーズ

- 民間企業側は、共通で使えるセールスツールや旬の情報に関するPR資料を求めているが、公的団体はそれを担い切れていない

顧客満足度、函館の観光満足度に対するニーズ

- 広く接客サービス業の改善向上を図るための場、異なる企業間でレベルアップを図るためのノウハウを共有できる場がない

事業趣旨

- ◎観光案内所、バス・空港等の各交通機関、ホテル、旅行代理店等の観光に関わる施設の窓口を発行先と想定し、地域イベントや観光商品の情報を掲載したニュースレターの発行
- ◎観光案内所やホテル等のフロントスタッフの顧客対応力向上のための情報提供や函館市内における既存イベントの魅力向上策、誘客促進策等の意見を収集し、改善を図るためのワーキンググループの設置

2 新幹線開業に関わるこれまでの本所の活動

現函館・新函館間JR経営分離問題に対して（平成22・23年度）

JR北海道が、平成22年3月の政府整備新幹線問題調整会議において、新函館と現函館駅間が経営分離区間であることを表明。

これを受け、本所では関係機関や市民と一丸となり、平成22年4月から平成23年12月21日の函館市長による分離同意まで下記の活動を中心にJR経営継続（経営分離反対）活動を行ってきました。

主な活動

- 函館市長、市議会議員、商工会議所正副会頭による北海道庁やJR北海道への経営分離撤回要請
- 函館市、商工会議所（市内商工会）、函館市町会連合会によるJR経営継続署名活動
- 函館市長、商工会議所会頭、函館市町会連合会会長による111,481筆のJR経営継続署名をJR北海道へ提出、あわせて道庁へ同趣旨要請
- 会員や関係機関に対し、新函館・現函館間JR経営分離に反対する理由やJR経営分離案の問題点と見解について周知

経営分離同意後の活動（平成24・25年度）

函館市長による経営分離同意後には、新函館駅の早期開業に向けた中央要望、新函館駅と現函館駅間の鉄道アクセス充実に関する要望、建設工事資材等の地元企業受注機会の確保要請等、新幹線開業効果を最大限に活かすための観光客に対する受入体制の強化や近隣の都市への函館のPR活動等を行ってきました。

主な活動

- 北海道商工会議所連合会として新幹線をはじめ高規格幹線道路やインフラ設備、エネルギー対策の課題を与党議員会や国土交通省等の関係省庁へ要望・要請
- 新幹線開業対策特別委員会や各部会等における新幹線開業対策についての協議
- 本所青年部 新幹線開業準備委員会の設置

北海道新幹線新函館開業対策推進機構を通じた活動

- 北海道新幹線新函館開業対策推進機構による新函館・現函館駅間の鉄道アクセス充実等に関する要望や九州新幹線全線開業2年目の現況調査
- 北海道新幹線新函館開業対策推進機構・新幹線青森・函館早期開業促進期成会による「ようこそ函館演出事業」の推進
- 北海道新幹線新函館開業対策推進機構による新幹線開業はこだて魅力創造ゼミナール（はこぜミ）の設置
- 北海道新幹線新函館開業対策推進機構による北海道新幹線地域活性化フォーラムの開催
- 北海道新幹線新函館開業対策推進機構による各種団体への出前講座の実施

※文中の新駅名の「新函館」は、現在の「新函館北斗」（平成26年6月11日正式発表）を指します。

3 平成26年度の新幹線開業に関わる主な出来事と会議所の主な活動

本所では、北海道新幹線の早期完成に向け、青函共用走行問題や新幹線高速走行に関する要望活動、新函館駅と現函館駅間の鉄道アクセス充実に関する要望、新幹線開業に関わる地域との交流や情報交換等を行っています。

主な出来事

日付	出来事	日付	出来事
4 / 16	JR 北海道 H5 系デザイン発表	11 / 1	新青森・新函館北斗間レール締結
5 / 24	新幹線高架橋レールウォーク開催	11 / 20	北海道新幹線 H5 系車両 内覧会
6 / 11	新駅の名称「新函館北斗」が正式発表	12 / 1.2	新函館北斗駅、木古内駅試験走行セレモニー
8 / 1	北海道道南地域並行在来線準備(株)設立	12 / 7	新函館北斗、奥津軽いまべつ間試験走行
10 / 13	JR 北海道 H5 系函館港に陸揚げ		

会議所の主な活動

野上国土交通副大臣へ北海道新幹線青函共用走行問題の早期解決を求める要請書を提出

4月19日、北海道新幹線開業時における高速走行の実現に向け、新幹線と貨物列車の共用走行区間における高速のすれ違い等の諸課題解決のための技術開発並びに導入の推進についての要望書を野上国土交通副大臣へ提出しました。

青函共用走行区間高速走行早期実現協議会の設立

在来線貨物列車と新幹線の青函共用走行区間における全ダイヤ高速走行（時速260km）の実現に向けて関係機関が情報共有を図り、両地域が連携することを目的に、青森県と北海道が沿線市町村や関係経済団体へ参加を呼びかけ、4月30日に青函共用走行区間高速走行早期実現協議会が設置され、本所もこれに参加しました。

室蘭・登別・伊達・函館商工会議所新幹線連携会議

5月16日に室蘭・伊達・登別商工会議所による北海道新幹線に関する取り組み調査・視察の一環として、本所会議室において北海道新幹線連携会議が開催され、双方の取り組みについての説明や新幹線開業後における鉄道交通や物流についての意見交換を行い、道民全体の機運を高めていくために、より一層の連携を図っていくことが確認されました。



東北新幹線沿線YEG函館PRキャラバンの実施

北海道新幹線開業をPRし函館の魅力を伝えると同時に、各地域の魅力を学び、今後の交流促進に繋げることを目的に、本所青年部による東北新幹線沿線YEG函館PRキャラバンが実施され、8月24日～26日の日程で東北新幹線沿線の33商工会議所青年部を3班に分かれて訪問し、青年部メンバーが独自に作成したグルメガイド等を配布し函館観光のPRを行いました。



PRキャラバンに参加した青年部メンバー

新函館北斗・現函館間の鉄道アクセス充実等に関する要望の実施

北海道新幹線新函館開業対策推進機構は、9月30日に「新函館北斗・現函館間の鉄道アクセス充実等に関する要望」をJR北海道に対し実施し、西村会長、森副会長（函館国際観光コンベンション協会副会長）、谷口副会長代理（函館市企画部長）ら5名がJR北海道本社を訪問し、要望書を手渡しました。

青森県・函館デスティネーションキャンペーン推進委員会への参加

自治体、観光関係団体、観光事業者等が一丸となって、観光資源の掘り起こしや磨き上げ、観光客受入体制の整備・充実を図りながら、全国のJRグループ6社の協力のもとデスティネーションキャンペーンを展開し、国内外からの誘客、地域の観光力の強化を図ることを目的に「デスティネーションキャンペーン推進委員会」が11月10日に設立されました。本所では、このキャンペーンを通じ、北海道新幹線開業を機に観光圏の広域化が見込まれる青森県と函館市への誘客を促進していきます。

新幹線開業に関わる地域間の交流の活性化

●宮崎・福島商工会議所視察団との研修懇談会

9月12日に宮崎商工会議所議員平成会一行11名、9月25日には福島商工会議所観光・交流委員会一行5名が相次いで本所を訪れ、新幹線開業に対する函館の取り組みの説明や意見交換を行いました。

●宇都宮市議会・市議長が本所を表敬訪問

栃木県から宇都宮市議会一行8名が10月17日に本所を表敬訪問し、北関東3県で最大の都市である宇都宮市への北海道新幹線停車により観光や経済面でさらなる交流拡大が図られる旨の宇都宮市佐藤市長、熊本市議会議長連名の親書が手渡されました。

続けて10月23日に、熊本市議会議長が本所で松本会頭と会談し、宇都宮市議会と栃木県市長会、栃木県市議会議長会が宇都宮駅停車を求める決議をしたことを報告し、会議所として、今後の機運の醸成や関係機関への要望活動について最大限の協力をしていくことを確認しました。

また、12月1日には、宇都宮市長、市議会議長、商工会議所会頭が函館市を訪れ、函館市長、市議会議長、本所会頭との会談が行われ、停車運動について、宇都宮での取り組みの報告や意見交換を行いました。



宇都宮自民党議員会より親書を受け取る
西村副会長

●観光分野における道央・道南地域商工会議所意見交換会開催

11月24日、「北海道新幹線開業を契機に、観光振興についての連携を」との札幌商工会議所の呼びかけにより「観光分野における道央・道南地域商工会議所意見交換会」が開催され、札幌のほか、小樽、室蘭、岩見沢、苫小牧、森、江別、倶知安、登別の商工会議所が参加し、各地の観光振興に関する取り組みの説明や意見交換が行われ、北海道新幹線開業を機とした連携、協力の強化が確認されました。

4 2016年3月北海道新幹線新函館北斗開業に向けて

先人達の努力の上にある北海道新幹線新函館北斗開業において、地元住民である私たちは、その経済波及を実現させる責務があります。そのためには、官民一体となってビジョンを共有し、地元にあるものを活かした新たな価値発掘と創造、外貨獲得と域内の循環を推進していく必要があります。

今後も本所では、北海道新幹線新函館開業対策推進機構ならびに新幹線青森・函館早期開業促進期成会の事務局運営等、既存の観光サービス点検評価と持続可能な事業スキームの再構築、事業の担い手である市民や事業者の育成とホスピタリティの強化、首都圏・北関東・東北地区へのプロモーション活動の推進等、新幹線時代に必要な基盤整備と地域の魅力の更なる向上のため、各種事業を積極的に実施し、北海道新幹線新函館北斗開業に向けたまちづくりの推進を行っていきます。

